

コミュニケーションをはばむ障害 (おきまりの12の型)

親業訓練協会資料

子ども 「仲間はずれにされて、泣いてくる。」

1. 命令 子どもに何かするように、またはしないように言う。
親 「泣かないで、やりかえしなさい!」
2. 脅迫 これをすれば、どんな結果になるかを言う。
親 「はっきりイヤだって言わないと、これからもやられるよ!」
3. 説教 何をすべきか、すべきでないかを言う。
親 「仲間はずれは卑怯だとお友だちに言うべきよ。だからわかってもらえないのよ!」
4. 提案 どうしたら悩みを解決できるか、助言、忠告、提案をする。
親 「他の子と遊んだら。先生に相談してみたらどう?」
5. 講義 理づめで迫る。
親 「仲間はずれにされたなんて思わないで、話し合えば大丈夫よ!」
6. 非難 子どもに対し、否定的な評価をする。
親 「それくらいのことで、弱虫ね!」
7. 同意 肯定的な評価をしたり、賛成する。
親 「そんな子と仲良くしないでいいよ!あなたはいい子なんだから。」
8. 侮辱 辱める。
親 「ちょっとはずされたくらいで、メソメソしてして赤ちゃんみたい!」
9. 解釈 子どもの動機は何かを、親が解釈したり、原因を分析する。
親 「あなたもいじわるなことしたんじゃないの!」
10. 同情 子どもの気持ちをよくしようとする。
今の気持ちから抜け出させようとする。
親 「あなたも大変ね。明日はいいことがあるわよ。」
11. 尋問 原因、動機、理由を見つけようとする。
親が子どもの悩みを解決するために役立つ情報を子どもから聞こうとする
親 「なぜ、あなただけやられるの?いつからなの?先生は知っているの?」
12. ごまかし 悩みから子どもをそらそうとする。親自身が問題から逃げ子どもの注意をほかにそらす。冗談にまぎらわせる。
親 「わかったから、おやつでも食べよう。」